

# 大障教ニュース

大阪府立障害児  
学校教職員組合  
大阪市天王寺区  
東高津町7 11  
府教育会館704号  
(TEL)6765-8904  
(FAX)6765-8905

## 「ポスト真実」・ウソの政治とどう向き合うか!

### 春の憲法学習会 「戦争法廃止発動ストップ 共謀罪法案は廃案に！」

講演する日比嘉高さん



共謀罪(テロ等準備罪)が国会で本格的な審議に入るといふ緊迫した状況の中、共謀罪は廃案を！監視社会は絶対に許すな！と、4月21日、大阪憲法会議 共同センター主催の憲法学習会が大阪グリーン会館で行われ、労働組合・民主団体などから約100人が参加しました。日比嘉高さん(名古屋大学大学院文学研究科)が「ポスト真実」とどう向き合うか? にせニュースの時代に「と題して講演し、事実に基づかないウソと偽り、「ポスト真実」の政治とどう向き合うかについて語りました。

#### 「ポスト真実」とは何か

始めに日比さんは、昨年末、オックスフォード辞書が年間の世界の言葉に選んだ「ポスト真実」について述べました。「ポスト真実」とは、「世論を形成する際に、客観的な事実よりも、むしろ感情や個人的信念」が影響を及ぼす状態を指す。米大統領選でのトランプ陣営の様々なウソ、イギリスでEU離脱が問われた国民投票の際のウソ、東京オリンピック誘致の際に安倍首相が述べた(福島原発は)完全に統御(ブロック)されている」というウソ、こつした事実に基づかない主張がまかり通ることが社会で起きていると指

条へのアピールの方がより影響力があるような状況を示す言葉です。「ポスト」は、後の、「次の」ということを意味し、「真実の次に来る」「脱真実」というニュアンスで、「事実よりも感情」ということです。米大統領選でのトランプ陣営の様々なウソ、イギリスでEU離脱が問われた国民投票の際のウソ、東京オリンピック誘致の際に安倍首相が述べた(福島原発は)完全に統御(ブロック)されている」というウソ、こつした事実に基づかない主張がまかり通ることが社会で起きていると指

#### 言葉を変えて本質をこまかす

日比さんは日本の「ポスト真実」の特徴についてたとえ「戦闘」を「衝突」、「武器」を「防衛装備品」、海外での武力行使を「積極的平和主義」

「共謀罪」を「テロ対策」などと意図的に言い換えるところがあると述べました。その上で、「このように、言葉遣いを変えることで本質をこまかそうとする傾向が強い」と指摘しました。

#### わかりやすい言葉で事実を伝える

不満や怒りのはけ口が、排外主義的な言動や行為に向かうという流れが、今、世界的に広がっています。そういう強い感情や信条と結びついた人々には、事実の正確さだけを示しても簡単には納得しません。こつした状況をふまえて日比さんは、人はだまされ続けるとウソに慣れ、怒る気がなくなっていくと述べました。その上で、「ついに正常な判断ができない状態にまでなっ

てしまつ」と強調しました。講演の最後に、メディアやネット上に流される膨大な情報を取り扱う際の心構えについて、次のように参加者に訴えました。「私たちは、情報の出所や執筆者などを確認し、それが信頼に足るものか確かめる習慣を身につけなければなりません。ネット上の目を引く情報には危険もあるのです。皆さんは、事実かどうかをチェックし、一般の人たちに向けてわかりやすい言葉で正確な事実を伝え続けていくべきです。」

摘しました。

その上で日比さんは、全くの偽のニュース(フェイク・ニュース)が意図的に大量に流され、読者がチェックしないままに信じてしまい、その結果、偽の情報が一人歩きしていると述べました。これはインターネットの文化と深くかかわる問題で、世界中で見られます。

#### 2017年度大障教定期大会

日時：5月13日(土)  
午後1時～5時  
(受付開始 12時30分)  
会場：大阪府教育会館  
(たかつガーデン) 8階「たかつ」

大障教ホームページアドレス <http://www.1a.biglobe.ne.jp/fushou/> Eメール アドレス : fushoukyou\_1@mtb.biglobe.ne.jp



家庭教育への国の統制を可能とする「家庭教育支援法案」が、今の国会に提出される見込みです。この法案は、2012年に安倍首相が会長となって発足した「親学おやがく」推進議員連盟が、立法化を進めてきました。家庭教育とは、親が子どもに必要な生活習慣をつけさせることだとして、親には子育ての意義を理解することを求め、国・自治体には家庭教育支援「施策」の策定が義務付けられます。

この「施策」に活用されようとしているのが「親学」です。「親学」では、「親が変われば子どもが変わる」と親の責任が過大に描かれ、発達障害も親が変われば治るなどと珍論が展開されています。また、「母性」「父性」「女の子らしさ」「女の子らしさ」といった性差の強調や、郷土愛、愛国心を獲得「させる」ことにもふれています。「親学」の教科書より。

すでに発表されている新学習指導要領は、「我が国と郷土を愛する」など「愛国心」の押しつけを幼稚園段階から強化するものとなっています。「家庭教育支援法案」は、同様の押しつけを家庭にまで広げることで、安倍「教育再生」を総仕上げしようとするものだと懸念されています。あるべき「家庭教育」を国が決めて家庭に介入するなど、「尽忠報国(じんちゅうほうこく)」「(忠節を尽くし、国から受けた恩に報いる)を求めた戦時家庭教育指導要領」と同様の構図です。各家庭の事情や、個々人の生活を無視した立法は、家庭の中での男女平等や個人の尊厳を謳っている憲法に反する「など、すでに多くの弁護士から反対の声が上がっています。」

# 新しい仲間を迎え、 各分会での趣向を凝らした新歓のとりくみ (その2)

## 今年もやりました

### 新転任歓迎花見会

#### 堺支援学校分会

4月5日、例年より遅めの桜の開花でしたが、私たちを待っていたかのように七分咲きとなり、その下で毎年恒例の新転任歓迎の花見会を行いました。大仙公園入口の、満開になろうとする桜を頭上にながめながら、みんなで「乾杯!」。その後、自己紹介コーナーとなり、「名前・所属学部・学年・教科」そして、「趣味」を一人ひとりが披露しました。質問コーナーをはじめ、お互いの名前を少しでも早く覚えるために、「(特徴)の(名前)」(例:クワリネットの小島)と「印象に残るニックネーム? コーナー」もあつて、新転任者との交流が深まりました。

暗くなるにつれて色々な表情を見せる桜と、30人近くの新転任者を交えての歓迎会となりました。

なお、4月3日の辞令交付の日の昼食には、これも堺支援学校分会恒例となるカレーライスがふるまわれました。

## 分会役員の似顔絵入りの

### 加入届とクッキーを添えて

#### 枚方支援学校分会

新年度のスタートと同時に、「枚方支援学校による」と、クリアファイルに分会役員の似顔絵入りの加入届を入れ、総合共済の職場賞でいただいたクッキーと一緒に、新転任の先生方へ配りました。4月15日の北河内5分会合同新歓のピラも事前に配り、参加呼びかけを行いました。

4月10日には、分会集会を開きました。新学期早々から、生徒指導など忙しい組合員も多く、全体で8名の参加となりましたが、新しく仲間になった青年を含め、若い組合員が集まってくれました。集会では、「昨年度、帰りが遅い教職員が多く、多忙な状態の改善を管理職は課題としながら、結局新たにとりくむ業務ができ、ますます多忙な状況が生じている」等、次々と感想が述べられました。

また、開校3年目で児童生徒数が370名を超え、年々教室が足りなくなつてきています。そのため、特別教室の転用や1クラスの人数の圧縮で対応することになっており、転用教室が狭く、小学部の子どもには使にくい状態であること等も、分会集会では報告されました。多くの課題がある枚方支援学校ですが、教育において何を一番大事にすべきか、みんなで考えていきたいと思えます。

## 分会紹介

### 第1回

分会名：光陽支援学校分会  
 分会長：橘岡正樹  
 障害種別：肢体・病弱  
 児童生徒数：91人

どんな分会?：光陽支援学校は、大阪市の東にある、大阪で一番古い肢体不自由校で、2009年に閉校になった病弱校・貝塚養護学校の機能が統合されました。この春、分会長、青年部長が異動され不安な面もありましたが、新しい仲間を迎え、光陽らしく元気で明るい分会活動をしていきたいと思えます。分教室が2カ所の病院にあるため、職場は3カ所になり不便なこともありますが、大障教の一員としてがんばります!

5月2日号は休刊とします

## 柏木先生 おつかれさまでした

### 岸和田支援学校分会女性部 お茶会

3月31日 長年肢体不自由教育にたずさわり、府障教では女性部の中心となって活躍してこられた柏木先生のご退職にあたって、岸和田支援学校分会では女性部でお別れのお茶会を催しました。組合員以外の方もふくめ女性教職員10数人が参加し、色々な話に花が咲きました。

柏木先生は、岸和田支援において、子どもたちの障害が重度になっていく中、医療的ケアを必要とする子どもたちと多くかわり、学校でケアをすすめる役割を果たしてこられました。再任用になってからは自立活動の専任として、様々なアドバイスを教職員にして頂き、教育実践をしっかりと支えてくださっていました。柏木先生から子どもの思い出話を聞きながらも、学校がたどってきた歴史を振り返ることができたと思います。

また、柏木先生は、府障教の女性部長として、母性保護を中心に女性の権利を守り拡大するために、長年奮闘してこられました。もっと柏木先生から聞きたいこと、学びたいことがたくさんありました。「こうした集いをもっとこまめに開けていたら・・・」と後悔も。

先輩が築いてきた教育と学校をより良いものに、子どもたちと教職員が生き生きと生活できる学校にしていきたい。柏木先生のお話を聞きながら、そんな思いを新たにしました。

(岸和田支援学校分会 井関美季)